

体験型海外教育実地研究 第5学年 社会科

「Let's study from money!」

教育学研究科 科学文化教育学専攻 社会認識教育学専修 森 玲 薫

1 はじめに

私がこの体験型海外教育実地研究を知ったのは、大学院入学後すぐのことだった。地理学を専攻している私は、もともと外国の生活や文化、風習、気候、地形など到大変関心があり、これまでに何度か外国旅行も経験していたが、アメリカという国は自分が訪れたことがない国であったため、どんな国なんだろう?行ってみたい!という気持ちが強かった。4月に説明会に参加し、具体的な授業の概要や目的を知った時、外国の学校で英語を使って授業をするという経験はもしかしたらこの時でないと一生経験することがないかもしれない、と考え参加を決めた。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊
4/26	木	17:30-18:30 C526	渡航までの日程確認 パスポート確認 ESTA・保険の確認 授業研究テーマの設定方法 部屋割り確認	
5/18	金	18:00-19:00 C526	授業研究テーマの交流	
6/7	木	18:00-19:00 C526	学習指導案の検討	
7/2	月	18:00-19:00 C527	学習指導案の(英語版)の検討	
7/7	土	13:00-16:30 L104	第8回学校間交際フォーラム (17:30～懇親会)	
7/8	日	9:30-11:00 C527	授業研究ワークショップ,現地教員との指導案検討	
8/2	木	13:30-14:30 C526	保険説明,学習指導案の検討および提出について	
8/30	木	13:30-15:00 C526	指導案・授業の準備状況確認, 報告書・教材集および発表会について 渡航関係書類一式配布 渡航準備 書類(事務提出書類)提出	
9/11	火	18:00-19:00 C526	直前打ち合わせ	
9/15	土	広島―成田 0745-0925 (NH3112) 成田―Washington Dulles 1105-1040 (NH2) Washington dulles―Raleigh 1245-1340 (UA3757) 空港→ホテルへ (Sandra 先生,Julie さんによる送迎)		<u>City Hotel & Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 Tel:877-271-2616
9/16	日	(Sandra 先生,Julie さんによる送迎)	授業準備 Greenville 散策 Linda 先生宅で夕食会	Greenville 同上
9/17	月	ホテル→小学校 (Sandra 先生による送迎)	学校訪問(Elmhurst 小学校) 学校の説明,校内見学,授業見学	Greenville 同上

			(Wanda 先生,校長先生を中心に) 担任の Carol 先生と授業の打ち合わせ Ledford 先生宅で夕食会	
9/18	火	ホテル→小学校 小学校→ECU (East Carolina University) (Sandra 先生による送迎)	授業参観(横井)途中まで 授業実践(Elmhurst 小学校) (森 : 9:15-10:30 75 分間) ECU 訪問 図書館,リソースセンターの見学 昼食後,大学院の講義に参加 ティーチャーズショップ訪問 ECU レセプションホールで夕食会	Greenville 同上
9/19	水	ホテル→St.Peter's カトリック学校 →Raleigh (Sandra 先生による送迎)	学校訪問 校内見学,授業見学 Raleigh へ移動	<u>Clarion State Capital</u> 320 Hillsborough St. Raleigh, NC Tel:919-833-1631
9/20	木	徒歩	学校訪問 (Exploris ミドルスクール) Raleigh 散策	Raleigh
9/21	金	ホテル→空港(RDU) (タクシー) 空港(IAD)→ホテル (タクシー)	Raleigh—Washington 1017-1124 (UA) Washington DC へ移動 アメリカ文化体験	<u>Washington Plaza</u> 10 Thomas Circle,N.W. Washington,DC 20005 Tel:202-842-1300
9/22	土	徒歩,地下鉄	アメリカ文化体験 スミソニアン博物館見学 ニュージウム見学など	Washington DC (同上)
9/23 9/24	日 月	Washington Dulles—成田 1220-1525 (NH1) 成田—広島 1630-1805 (NH3111)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第5学年 社会「Let's study from money!」

3.2 事前準備

① 単元設定の理由

本授業では、日本の5円玉を教材として用いた。アメリカで生活する子どもたちにとって外国の通貨である日本円にふれる機会を持たせることと、5円玉に描かれているデザインの意味を紹介することがねらいだった。5円玉には、日本の産業の発展と民主主義への願いが描かれており、これは第二次世界大戦の敗戦からの復興への希望である。このことを子どもたちに伝え、子どもたち自身にも自国(アメリカ)の通貨のデザインをさせるという活動を取り入れようと考えた。現代を生きるアメリカの子どもたちは、自国の将来に何を願い、どんな希望を持っているのかということを表現する機会を持たせることも、本授業のねらいのひとつとした。

② 準備したこと

なるべく実際の教材にふれることで子どもの学習意欲や感動体験につなげたかったので、パワーポイントなどの視覚教材は用いず、実物のお金(紙幣、硬貨)を準備した。また、授業時間がはっきりと決まっていなかったため、説明時間を調整できるように板書をあらかじめ画用紙に書き込み、現地へ持って行った。

また、今回の授業の中で、時間に余裕があれば、子どもたちに紹介したい絵があった。それは、昨年の東日本大震災で被災した子どもたちが描いた、復興への願いを描いた絵である。授業の内容とは直接関係のないものではあったが、現在の5円玉が誕生した背景にあった、戦後の状況と、震災直後の東北地方の状況は、非常に困難で復興が必要であるという点で共通している。そして震災を経験した人たちの中には、授業を行ったアメリカの小学校の子どもたちと同世代の日本の子どもたちも多い。そんな現代の日本の子どもたちの思いを何かの形で伝えたいと考えていた。偶然、広島空港に「平和のでっかい絵」という絵が展示されており、この絵を描いた宮城県の公立小学校に直接問い合わせをしたところ、授業で紹介することを快諾してくださったため、授業で紹介するために写真を撮り印刷して持って行った。

3.3 学習指導案

Lesson Title : “Let's study from money!”

Lesson Author : Reika Mori

Date : September 2012

Grade levels : 5th grade (Elmhurst E.S.)

Subject : Culture

Description :

In this class, students will learn about the meaning of the picture drawn on the

(Japanese) currency. Teacher will convey that

the wish to the future development and peace of

Japan is put in the design of 5 yen coins. After learning about Japanese currency, students design the currency of their own country.



【図1 宮城県の小学生が描いた絵】

Objectives : As the result of this activity, students will be able to

1. Have an opportunity to come in touch with foreign currency.
2. Learn the meaning and the wish loaded in the design of the Japan currency.
3. Design a currency for their own country.
4. Know the thought of children who suffered from by Great East Japan Earthquake.

Procedure

Activity	Teacher's activity	Materials
1. Have a look at Japanese money 2. Think what is drawn on the currency	1. Explain today's activity: Learn about money. 2. Ask a question what is drawn on the Japanese currency. 3. Explain that the history and the culture of the country, a wish to the country's future are described in the currency.	The picture of Japanese currency (picture)
4. Think the meaning of the design of the 5 yen coin of Japan.	4. Explain the meaning of the design of the 5 yen coin of Japan. • Ear of rice=Agriculture • Water= The marine products industry • Gear=Industry • Two buds= State toward the democracy The wish that is going to get over postwar difficulty of Japan is drawn on a 5 yen coin	5 yen coin of Japan (Genuine)
5. Design a currency	5. Let them design an American currency freely.	Drawing paper Crayons Colored Pencils
6. Let children introduce (show) their design to other classmates. (some children)	6. Ask what their wishes are.	
7. Know the thought of children who suffered from by Great East Japan Earthquake.	7. Show the picture of Great East Japan Earthquake. 8. Show the picture (something) designed by children in Miyagi.	The picture of Great East Japan Earthquake

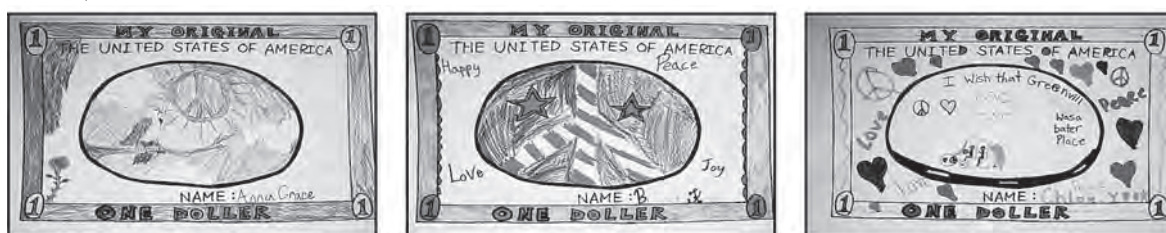
3.4 授業の実際

- (1) 自己紹介と授業を始める前のウォーミングアップを兼ねて、自分の名字の森という漢字をクイズにして紹介した。このクイズが意外に子どもたちの興味をひき、子どもたちの漢字に対する関心の高さを知る機会になった。
- (2) 日本の通貨の実物(お札と硬貨)を子どもたちに手にとってもらい形や色,何が描かれているか等,気づいたことを発表してもらった。
- (3) 日本の通貨には,人物や建造物,日本の歴史,文化などが描かれているが,このことはアメリカの通貨にも言えることであり,共通していることを理解させる。
- (4) 5円玉が写っている写真を見せ,このように穴が開いているお金を見たことがあるか質問した。穴開き硬貨はやはり珍しかったらしく,子どもたちは目を丸くして見入っていた。
- (5) 実際の5円玉を1人に1枚ずつ配布して,そこに描かれている絵の意味は何か質問した。
- (6) 5円玉のデザインには,産業の発展と民主主義への願いが込められていることを説明する。
- (7) 子どもたち自身に,自国の通貨をデザインさせる。その際,アメリカが将来どのような国に発展していったほしいかという自分の願いや希望を込めるよう説明する。
- (8) 現代の日本の子どもたちが自国の将来に何を願っているかを表すものとして,東日本大震災で被災した子どもたちが描いた絵を紹介する。(宮城県の公立小学校の提供による)
- (9) 最後に5円玉をプレゼント。クラスで写真を撮って授業を終了する。

3.5 考察

本実践で得られた成果,反省は以下の2点である。良かった点は、全体を通して授業がスムーズに進んだことである。これに関しては,前日の打ち合わせの段階で授業に用いるカラーペンや磁石といった教具の準備が教室で整っていたことや,授業当日においても余裕をもった授業時間(75分)を提供して頂いたこと,子どもたちの授業の内容に対する理解能力が高かったこと(私が配属されたクラスが,成績が優秀な子どもたちを集めたクラスだったことと多少関係があったのかもしれない),そして担任のCarol先生の授業補助があったこと,など多くの好条件が重なっていたためだと考えられる。子どもたち自身も積極的に授業に取り組み,それぞれの自由な発想を表現することができた。また,授業内で全員に1枚ずつ配布した5円玉をプレゼントしたところ,どの子どもも大変喜んでくれた。

課題は,自分の語彙力の不足から,子どもたちの意見を正確に反映できていなかった点である。自分の考えや思いをはっきりと発表することができる子どもたちが多く,授業中にたくさんの意見が挙がっていたが,おおまかな意味だけの理解に留まってしまった。自分にもっと語彙力があれば,ひとつひとつの細かい意見まで授業に反映することができたと考えられる。



【図2 エルムハースト小学校の4年生が描いたオリジナル1ドル札】

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

今回訪問した学校は、小学校がほとんどだったので、中・高等学校については同様でないかもしれないが、どの学校も、教室や図書室がカラフルに装飾されており、こんな学校だったら毎日わくわくしながら学校に行けるだろうなあ、学校に行くのが楽しみになるだろうなあ、と感じた。学びの出発点は、子どもたちの興味・関心や知的好奇心であり、アメリカの学校の教室にはそれらを喚起するための工夫がたくさん散りばめられていた。教育内容の充実を図ることが日本の教育でも重要視されているが、学びの主体である子どもたち自身が知的好奇心を持ち、継続的に学習できるような工夫が今後必要だと感じた。

4.2 自分自身についての変容

今回の GPSC に参加することで、自分の中に新しい価値観を取り込みたい、自分を変えていきたい、という思いがあった。個人的な話だが、大学生になってから人前で話すことが苦手になり自分自身に自信が持てなくなっていた。少しでも自分に自信をつけたいという思いもあり、その為には自分から積極的に他者と関わることが大事だということも分かっていたので、アメリカでは失敗を恐れず人や文化の中に自ら飛び込もうと考えていた。そんな気持ちで授業に臨めたためか、授業を終えた時には確かに達成感があった。そして、「こんな私でもできた」ではなく、「これは私にしかできなかった授業だ」と思えることができた。

4.3 グローバルマインドに関する変容

ECU の授業に現地の大学院生と一緒に参加した時に、日本人とアメリカ人の表現方法の違いが話題になった。アメリカでは自分の意見や考えを声にして述べるのが常識であり、思っていることを言わないということは時に失礼にあたることもある。日本には「あうんの呼吸」という言葉があるように、言葉で語り合わなくてもお互いの理解を図る場面がよく見られる。

このような異なる習慣や価値観の交流の機会は、国際化が進む社会の中でますます増えるだろう。その時にどちらが良い悪いと判断するのではなく、相手を一人の人間として、習慣や価値観を含めて受け入れようとする姿勢が必要なのではないかと感じた。

5 おわりに

エルムハースト小での授業が終わった直後に、クラス担任の Carol 先生が私に対して「あなたは将来きっと **Great teacher** になるわ」とおっしゃってくださいました。まさかこんな言葉を頂けるとは夢にも思わなかったし、大変嬉しかった。今後教職に就いた時に様々な困難にぶつかってもこの言葉を励みに精進しようと強く思った。授業実践や学校訪問、アメリカ文化体験などを含め、今回の体験に参加して本当に良かったと感じるとともに、この実践に参加できることになったのも、小原先生や諸先生方をはじめ多くの方のご支援があったためである。今一度 GPSC 関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

